

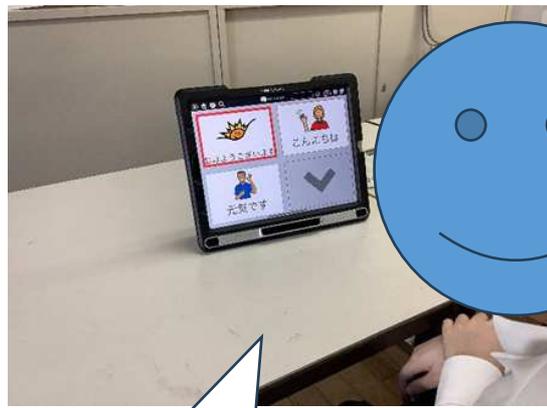
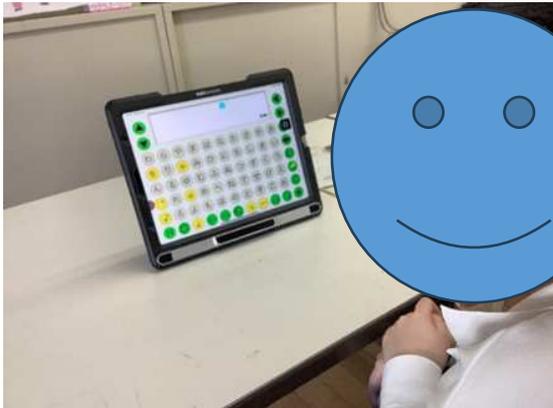
令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【2年目】

P T A名	静岡県立中央特別支援学校 P T A	
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input checked="" type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	179 人

1. 使用状況

寄贈物品名	TDパイロット(視線入力装置)
使用学年及び人数	中学部3年生 1人
使用頻度	週1回程度(2学期より)
使用状況	<p>対象生徒は、障害特性により将来的に視線入力を使用する可能性があるが、現段階ではパソコン入力、タブレット端末の操作などは問題なくできているため、授業中や日常生活ではTDパイロットを使用していない。将来の選択肢を広げるため、現在は休み時間にYoutubeでの動画視聴や気になったことを調べるなどをTDパイロットを活用して行っている。</p> <p>年度当初から、体調により出席状況が安定しなかったが、夏休み後から登校が増え活用する場面が多くなってきた。本人も自身の障害についてよく理解していることもあり、意欲的に取り組んでおり、TDパイロットの使用を楽しんでいる。定期的を使用することで視線入力での複雑な操作もできるようになった。文字入力の操作性もとても上達し、入力ミスも少なくなっている。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>TDパイロットそのものの使用感に特に変化はなく、利用させていただいている。昨年利用していた生徒が昨年度末に卒業したこともあり、同生徒の昨年からの継続的な効果を見ることできない。しかしながら本校教職員のTDパイロットへの知識や指導力は向上しており、昨年度に比べて活用してみようとする試みは非常に増加した。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>本報告書の事例生徒は現在で授業での活用予定はないものの、iPadそのものは授業や日常生活でも利用しており、使用頻度は高いことから状況によっては活用が在学中にあることも考えられる。そのため今後は入力精度の向上を狙う目的として休み時間での利用頻度を多くし、あわせて自立活動を主に授業での活用も少しずつ検討していきたいと考えている。</p> <p>また、今年度複数人の児童生徒がTDパイロットの活用を試みた。今後も今年度活用した児童生徒だけではなくより多くの児童生徒にTDパイロットの良さを知ってもらうべく、本校教職員にTDパイロットの実践例を共有し、学校全体での活用頻度を向上していきたいと考える。</p>
その他希望や所感など	<p>TDパイロットの裏に映し出される文字は、TD系のアプリでしか現在はできないがそれらがDrop Tapなどでも可能になるととても活用しやすいと感じている。</p>

2. 活用の様子



視線で指定したイラストが話すことを楽しみ、何度か取り組んでいた。次のページに進むことも覚え、色々なことを試していた。

普段もYouTubeをよく見ていることもあり、とても楽しく取り組んでいた。見たいものの文字入力を行ったが、入力時は入力が難しく顔をしかめていたが、実際に見れた時はとても嬉しそうであった。

TDパイロットの取り組みは本人も好きなようで自分からやろうと伝えてくることが多々あった。本人にも感想を聞いてみると「楽しい」と答えてくれた。iPad自体は授業や普段の生活でもよく活用していることからiPadの操作方法についてはとてもよく分かっており、スクロールやホームボタンを使用したときに困った様子を示していた。それらの方法はAssistiveTouchを使うことを伝えるとすぐにやり方を覚え、できることが増え、自由に操作していた。文字入力については初めは難しさを感じていたが、コツをつかみ操作も上達していた。